

職場体験 感想文コンクール2024

タイトル	仕事体験で得たもの	事務局	126
学校名	新庄市立新庄中学校	氏名	井上ひまり

もしこの世界に病院がなかったら、私たちはどうなってしまうのだろう。仕事体験を終えた私は、ふと考えた。

総合的な学習の時間で仕事体験に向けての活動が始まった。教室に張り出されたたくさんの企業の中から、私は医療関係の仕事を選んだ。なぜなら、私の母が医療関係の仕事をしていて興味を持っていたからだ。私は小さい頃、よく母の職場に遊びに行っていた。その際の、いつもの母とは違うてきぱきと働く姿に憧れを持ったのが医療に興味を持ったきっかけだろう。

医療関係の職場に行きたいと思った私は、採用面接に挑戦した。面接官はもともと看護師として働いていた方だった。緊張しながら面接場所に行き、面接が始まった。私はこの面接でとても大切なことを学んだ。それは、挨拶の大切さだ。医療現場では挨拶をしても返してくれないことがよくあるそうだ。そんな時でも、あきらめずに挨拶を続けることで、患者さんも自分自身も元気になるのだということがわかった。面接を通して、これからは日常から挨拶をすることを大切にしていきたいと思った。採用面接でたくさんのことを学び、無事合格した私は、不安な気持ちを抱えつつも体験当日を楽しみにしていた。

ついに迎えた体験1日目。集合時間は8時半だったのだが、心配性でとても緊張していた私は8時に体験場所に到着してしまった。職場に入ると、まずは自己紹介から1日が始まった。なんの当たり障りもない挨拶だったのに、スタッフの皆さんは温かい拍手で私を歓迎してくれた。その時、緊張が少し解けたのがわかり、とてもやる気が出た。

最初の仕事は胃カメラの洗浄だった。胃カメラはとても精密な機器で、壊さないよう細かいところまで洗うことがとても大変だった。人の手では洗いきれないカメラの細部などは、機械を使って入念に洗浄する工夫がされていた。また、胃カメラ検査の準備はとても大変で、タオルを準備したり、スリッパの位置を調整したりするなど、患者さんが快適に安心して検査が受けられるようにする工夫がされていた。

次の仕事は待合室に置く本棚づくりだった。この病院では、患者さんが待っている間も退屈にならないように、本や季節ごとの折り紙が置かれている。頭を使うような本や健康を維持するための本などがある。本を置くことで、患者さんが自分で健康管理をするきっかけを作ることができるのかなと考えた。また、折り紙はスタッフさんの手作りで、折り紙があることによって病院全体が明るい印象になるのだと実感した。1日目は院内の構造をなんとなく理解することであつという間に過ぎてしまった。家に帰った私は、気が付いたら寝ていて、相当疲れていたのだと思った。

体験2日目。1日目の反省を生かし、時間ぴったりに体験場所に到着した私は、1日目より元気な挨拶で病院に入った。この日の主な仕事は診察の補助だった。私が今まで訪れた病院では、医師が診察をしながらカルテを書いていた。しかし、ここでは患者さんとしっかり向き合い、些細な仕草まで見て最適な治療法を探すために、カルテは看護師さんや事務の方が書くという工夫をしていた。この方法で診察をすれば、病気の見落としも今までより防げるのかなと思った。また、診察と診察の間には必ず入念な消毒をして、衛生面の管理もしっかりと行っていることが分かった。

2日目には医師の先生にインタビューも行った。「やりがいは何ですか？」と質問すると、「自分の診ている患者さんがみるみるうちに元気になって、感謝されたときです。」と答えてくださった。私も日常生活の時に感謝をされるととても嬉しく、誇らしい気持ちになる。感謝をしてもらえる喜びは大人になっても自分自身を支えてくれるようなものなのだと思う。「心に残っている出来事は何ですか？」と質問すると、先生は開業初日にあった出来事について詳しく話してくれた。開業初日、見るからに具合の悪そうな患者さんが病院にいらっしやり、その方の病気をさまざまな検査を用いて、悪性リンパ腫と突き止め

たそうだ。それから治療をし、元気になった患者さんに感謝されたことが心に残っているのだそうだ。私はこの話を聞いて、自分にとって良い経験になった出来事は、それからの自分に生かされ心の支えになるのだと思った。また、私は先生に「AI化についてどう思っていますか？」ということ聞いた。なぜなら、今現在は、世界にAI化の動きが進んでいて、AIが進むことで人間のする仕事がなくなってしまうのではないかという不安を抱いていたからだ。そのため、先生から返ってきた回答に驚いた。先生は「AIと関わっていくことが今後大切になってくるのだ」とおっしゃった。AIの得意な部分はAIがして、人間だからこその人と人との関わりの部分では人間がメインになって仕事をするのが重要だそうだ。私は、これまでとは違う視点での先生の考え方に驚き、そして尊敬した。

インタビューも終わり、仕事体験も終わりが近づいてきた。私は今まで病院が怖い場所だと思っていた。でも、仕事体験で病院のスタッフの方々の温かさや、私たちが安心して病院に来やすくなるような工夫について知り、病院が少し好きになった。

仕事体験が終わった。スタッフの方々は、私が仕事体験に来た時と同じように温かく私を見送ってくれた。そのとき、私もこの人たちのようになりたい、と心の中で強く思った。それと同時に、もしこの世界に病院がなくなったら私たちの暮らしはどうになってしまうのだろう、とも思った。私がインフルエンザにかかったとき、足を怪我したとき、優しく治療をしてくれた。そんな病院という場所が世界になかったら、私は今頃生きることができているのだろうか。私たちは病院という場所があることにもっと感謝するべきで病院があることはとても幸せだと思った。私はこの仕事体験を通して、病院があることの「幸せ」も学べたのだ。

私は将来、理学療法士になりたい。なぜなら、ケガや病気で身体に障害のある人が日常生活を送ることができるように支援をしたいと思ったからだ。また、私は仕事体験を終えて、こんな大人になりたいという明確な目標ができた。これからは自分の夢をかなえられるように一歩ずつ確実に夢を追って、夢をかなえたい。